

道心



禅昌寺通信「道心」第44号

編集 日光山禅昌寺「道心」編集室
発行 平成 27 年 1 月 1 日
〒732-0002 広島市東区戸坂山根 3-2-7
TEL 082-229-0618 FAX 082-229-0822
E-mail: zenshotaiken@gmail.com
ホームページ <http://zenshoji.org/>

改歳之令辰

旧年中のご厚誼に感謝し、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

昨年は、広島市の土砂災害や御嶽山の噴火、長野県地震災害など、大自然の脅威と人間の限界を思い知らされる年となりました。被災されお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りすると共に、速やかな復興をご祈念いたしております。

さて、禅昌寺は元和元年（一六二五年）に創建され今年で四百年を迎えます。

この間、大洪水や火災により度々被災し、昭和二十年八月六日には原爆により戦災するなど、危機的な状況に何度も陥っています。その都度、その時々々の住職と檀信徒が丸となって復興され今日に至っております。昨年は広島市内各所で土砂災害が発生し、日本全国から「禅昌寺さんは大丈夫ですか？」とのお気遣いの電話やメールを頂戴しながら、過去四百年間に禅昌寺が直面してきた災難に思いを馳せざるを得ませんでした。

元和の元号は、長く続いた戦国時代の終りと平和が始まることを意味しているといわれていますが、まさに平和な時代に、私たちが無事四百年を迎えられることは、誠に有り難い事であると深く感じております。

そして、この平らかに成った時代に禅昌寺が進むべき方向は、寺門の興隆と伽藍の護衛は云うまでもなく、更に百年また百年と平らかな世の中が続くことを願い、和を尊び仏教徒としての絆を深め広めていくことだと思えます。その実践が、禅昌寺を次の百年へそして未来永劫に亘って継承されていく礎となるでしょう。

その実践の第一歩として、檀信徒並びに当山有縁の皆様にお施主さまになっていただき遊歩道の整備と観音菩薩立像の建立をお願いいたしましたところ、三百名を超える皆様からご協力を賜うことができました。誠に有り難い事と感謝いたしております。お蔭様で、遊歩道の工事もほぼ完了し、今月中には観音立像の据え付けも行われ、着々と工事が進んでおります。

そこで、この度建立されます観音様の呼称を平らかに成った平成の「平」と和の元を意味する元和の「和」をとって「平和観音」と名付けることにいたしました。ありふれた名前のようにではありますが、この四百年の歴史とこれからの禅昌寺の因縁を考えると相応しい名前であると思うのです。

来る四月十八日には、大本山永平寺より福山諦法禅師をお迎えして開創四百年の大法会を開催いたします。後日改めてご案内をいたしますが、おおよその内容は五ページに記載しておりますので、ご家族御揃いでご参加下さいますようお願い申し上げます。

感謝と感動

野坂 辰夫

妻の死去

妻は、去る5月29日午後6時、ガン汁で膨れ上がった下肢を懸命にマッサージし続ける私の下を、胆嚢ガンのため去って往きました。

懸命の治療をしていた家庭医の先生の「ご臨終です」との言葉に、ただ無心に「ありがとうございました」の感謝の言葉を返すのみ。そして息の途絶えた妻に「ありがとう」の万感籠った感謝の言葉。同席した家族や医療関係者の「よく看病されましたね」の慰めの言葉に、涙を堪えて頷くのみ。

これが80歳の生涯を終えた妻との別れの一齣である。

妻の闘病記

ガン発生までの経過

家内が40歳の頃、人間ドックを受診の際、多数のコレストロール系の胆石が発見された。

医者は「胆石は多くの人にあります。食後に強い痛みを感じない限り、さほど心配することはありません。将来ガン化する公算は約5%。その時点でも数々の対処法があるので、現時点で開腹手術を考えなくてもよいと思う。当面の治療として、胆石の融解薬を服用したら」と。その言葉に従ったが、半年たつても効果は見られなかったので打ち切った。

家内はその後、子宮筋腫の開腹摘出、

心臓カテーテル、腹部大動脈瘤の人工血管の置き換えの手術を受けましたが、その際の諸検査および手術中の所見でも、さしたる病変は見られませんでした。また再三行った血液検査でも心配するほどの異常値はありませんでした。

なお、近年盛んに行われている腹腔鏡による切除術は、再度の開腹手術による内臓癒着があるため、考慮の対象外と考えていました。

ガンの発見

ところが昨年の一月下旬、家内がアトリエで絵の勉強中、同席した親友の女医さんに「最近お腹が張って」と語ったところ、心配した女医さんは翌日病院でCT撮影。その結果は胆嚢の異常肥厚と肝臓に至る胆管の浸潤が疑われた。驚いた女医さんは、親友であり、その道の権威者である日赤の副院長に直ぐ電話をし、緊急診察を依頼しました。翌々日に行われた内視鏡による精密検査でガンの存在の有無、手術法の探索が行われました。その結果は、女医さんの危惧どおりで、手術は不可能、放射線による治療も不適当と判断されました。医者は、私達には真実を語り、妻には時機を見て告知すると話しました。その後、骨の転移検査が行われ、多数の骨転移が明白となりました。この時点で妻も大勢を察知しましたので、医者は妻に真実を告知し、皆んなで協力し、心を一にして治療に当たることになりました。それが緩和治療です。

緩和治療とは

限りある人生の余命を、出来るだけ楽に過ごせるよう、具体的には、ガン特有の痛みを適切に制薬しましょう。そのためには抗ガン剤の使用は必要最小限に止め、身体に害を及ぼさない程度の鎮痛剤の使用を考えましょう。

具体的には、頭髮の全部が抜けない程度の抗ガン剤を点滴し、また中毒症状を生じないモルヒネ系の粘薬を使用することになりました。

また副院長は「丸山ワクチンを始めとする免疫治療や、宣伝されているサプリメントの服用は、現状では効果が無い」と付言されました。

(注：この言葉は、通常高い浪費に悩まされる患者や家族にとつて貴重なものだと思います。)

入院期間や療養施設等について

国の施策としては、ガン等に緊急対応をする拠点病院の入院期間は約一週間乃至二週間程度で、病状によっては変動があるものの、極めて短期間であるようです。また退院後、または通院終了後の医療機関(療養施設を含む)の選定には、病院側も協力を惜しまないものの、患者側にとつては一大事であると思います。

病状が重大で且つ家族の介護に無理がある場合の受け皿の特老も数が足りず、加えて入所が難しくなりつつあることは注目に値します。

(近く、新規入所者は介護3〜5に限る

ことになる。)

介護や老人対応施設としては、治療病院や機能回復期病院、ケアハウスや有料老人ホーム等、数十種類にも及ぶ施設があります。この夫々には、長所や短所があり、同じ名称でも相当の格差があるので、皆様方で今後その必要を生じた場合は、その体制を研究し、また実地見分をするをお奨めします。

在宅療養とは

私の場合、病院が嫌いな妻の希望と主治医の意見、そして主治医が自宅療養型の専門医であり、且つ麻酔使用の認定医、指導医であることから、安心して在宅療養を選択しました。

在宅療養とは、簡単に言えば、医療保険制度下にある医師の往診、訪問看護師の派遣、薬剤師の協力、そして介護保険制度下にあるケアマネや訪問ヘルパーの利用によって成り立つ治療や療養体制にあると思います。

私の場合、医師の往診は週2〜3回程度、病状が重く且つ緊急の場合には一日に2〜3回程度、訪問看護師については、点滴を含めると日に5回も(例えば9時、11時、15時、18時、21時)、ヘルパーさんも日に3回程度(例えば10時、15時、18時)。妻の重症時には(深夜の3時、5時、11時、16時、19時)5回程度も訪問がありました。

思うに、病院入院時の見守り回数に匹敵、いや、それを超越する看護体制では

ないでしょうか。

その他、在宅療養に必要な特殊寝台、車椅子、特殊食卓、体位の変換布、床ズレ防止マット、簡易歩行器等のリース(実費負担は10%)を受けました。

また環境の安全工作物として、廊下の手摺り、浴室の握り棒、部屋段差の解消工事の補助(負担率10%)を受けたことを特筆します。

闘病中の或る日の記録

妻の闘病は一月に始まって五月末に終わる、約四ヶ月に亘るものでしたが、大変だったのは最終の五月の二ヶ月間でした。

午前3時、ヘルパーさんは、鍵の開けてあった玄関から、睡眠中の私を起こさぬよう注意を払いながら(注：私は目覚めていた)病床に近づき、体位変換やオムツ替(状況によってはポータブルトイレを利用しての排便)、約3時間の仮眠(自家用車内)。

午前6時から朝食の用意、6時30分から嚥下障害をおこさぬよう注意しながらの食事補助、9時には訪問看護師の水分補給や肝機能維持のための点滴と血圧測定、ヘルパーさんの昼食の用意と食事補助、12時過ぎ、病院の休み時間を利用した医師の往診、患者の呼吸数や心臓の状況、15時ヘルパーさんの洗濯や身体介護、18時夕食と服薬管理、21時看護師さんの体調見守りと便秘対策(モルヒネ

系投薬の副作用として発生する摘便等)、欺くして長い一日が終る。

残るは深夜の体位変換や排便の手助け(これが大仕事)である。

看病と私

以上、万全の介護体制のようですが、一日中介護段階にある家族の心身其の疲労度は、思ったよりも重いものでした。特に難渋したのは、ヘルパーさん不在時の体位変換、排便・排尿時の移動にあると思いました。重症時には、腰痛に悩まされる日々でした。

その結果が、身体が宙に浮いたように感じたり、極度の睡眠不足、栄養状況の不足があつてか、体重が5kg減少(63kgが58kg)しました。

有難かったのは、家庭医の先生は患者はもとより、私の健康を大いに気遣って戴いたことです。聞くところによれば、万一のことを考えて、予備の病室を確保してくださっていたとのこと、いくら感謝しても足りないと思います。

では、結論を申ししましょう。家族に於ける療養介護は、患者にとつて最も嬉しいものであると信じます。

「よかった、よかった」の一言。

最後に、60年間喧嘩らしい争い事も無く、誠心誠意、愛情を持って盡してくれた妻。その終末を支えていただいた医療や福祉関係の皆様には深甚の感謝と最高の敬意を表して、この稿を閉じます。

心に沁みた歌、 心に残った歌

東区 矢野 淑子

私は、先祖になる方々を見送り、私に残してくれた大切な時間を、種々学びたいと、その中の一つに短歌を詠んでおります。

短歌は、技法だけに力を入れ、中身がなければ人の心を動かす事は出来ませんし、歌の良し悪しは、上手下手でも決められません。

私は、よく友達に手紙を書きますが、文の終わりに私の短歌か、短歌人の詠んだ歌の中から、心に沁みた歌、心に残った歌を、書き添えます。友達も感激し共感してくれた中から、抜粋した四首に、私の拙い一言を添え、お書きしました。

桜の季節には、左の短歌を思い浮かべながら、行く春を惜しんでおります。

清水へ祇園をよぎる桜月夜

こよい逢う人みなうつくしき

与謝野晶子

桜はないのち一ぱい咲くからに

生命をかけてわが眺めおり

岡本かの子

晶子は、甘美にロマンチックに歌いあげ、かの子は、桜花のいのち溢れる開花に対し自らも、生命をかけて桜を眺めるといふ。

当時の「桜」を、前にして、晶子も、かの子も心をこめて詠んだのでしょう。大正時代を想像しております。

―二人の女性歌人に、乾杯でございます―

山崎方代の歌―

ふるさとの右左口郷は骨壺の底に

ゆられてわがcaえる村

* 右左口郷は（現・甲府市です）

この歌に出合った時、どうして、この様な歌が詠めるのか、郷愁がひしひしと伝わり、心を動かされ感激し、何度も何度も、読み返しました。

現在では、田舎から都会に出る人も多く、故郷があれば、老いたのちに、骨壺の底にゆられて、故郷に帰る人もあると思いますが―。

これからの、世の中は「―わがかえる村」の人は、少なくなるかも分かりません。日本中が淋しい事です。そんな中、この様な歌が生まれ、救われたようにも思います―。

高野公彦の歌―

ねむれ千年ねむりさめたら

一碗の粥たべてまたねむれ千年

詠み人は、高野公彦氏ですが、この歌に出合った衝撃は、今でも、記憶に鮮明であると桑原氏―。

桑原氏の妻は、長い間、寝たきりの病床生活にあり、そんな状況の中、この歌を眼にし、「この上なく癒され、忘れられない一首」として、心の奥に大切に蔵い込まれると云う―。

生まれ変わり、死に変わりして輪廻する―、生のイメージが、骨格としてあり、一碗の粥を食べる時には、まさに現世にある一瞬の事であろうと―。

この歌は、優しい中にも、仏教と哲学の感性があり、八十才を過ぎた私も、高野氏の歌は、心が癒され、心暖まる思いがしております。

澄みきった夜、禅昌寺の裏山から、大きなまん丸い月が上がる季節、また、夕日が沈んだ、後の山の連なり（秋）も、見事です。

夕映えのち澄みきった青空に

漆黒に浮く山の連なり

淑子

寄稿 趣味の俳句と短歌

読みきれぬテレビの字幕曼珠沙華

河野貞子

電話越し孫の泣きこえ春うらら

まめに育てよ我らを越えて

検診に腫瘍ありと告げられて

驚く我は靴たがえたり

神成昭治

禅昌寺開創四百年大法会の概要

四月十八日（土）「平成二十六年十二月現案」

九時

観音菩薩立像開眼法要

禅昌寺東堂による観音立像への入魂の読経を行います。写経を申し込まれた皆様は、この法要にて納経いたしますので、是非ご参加下さい。

十時

開創四百年慶讃法要

大本山永平寺貫主福山諦法師様によるお祝いの法要です。禅昌寺のご開山東庵守陽大和尚さまと歴代のご住職さまへの報恩のご供養を行います。

引続き

檀信徒総回向

十一時

因縁会

檀信徒の皆様と禅師様とのご縁を深めて頂くための血脈を禅師様から直接授かる儀式です。血脈とは、御教えがお釈迦様から禅師様まで脈々と伝えられたことを表す系図で、各家のお仏壇にお納めいただくものです。

引続き

法話

十二時半

祝斎

参加される皆様にお祝いのお弁当をお配りし、清興を楽しみながら召し上がっていただけるよう準備いたします。

終日

縁日

十八時

開創四百年記念コンサート

メジャーデビュー以来「徹子の部屋」に出演するなど、全国各地で活躍しているツケメンを迎えてのコンサートを開催いたします。ツケメンは、禅昌寺檀信徒の伊藤優さん（ピアノ）とバイオリン二名による演奏グループでデビュー前から禅昌寺本堂で演奏していただくなど、禅昌寺とご縁の深い皆さんです。どうかこの機会をお見逃しなくご参加下さい。

◆行事報告◆

（平成二十六年一月～十二月）

●年頭坐禅会

・正月元旦 午前八時より

五名程度の参加者でしたが、清々しい念頭となりました。

●新年修正会（大般若祈祷会）

・正月元旦 午前十時より

厳しい冷え込みの中、大勢の参加者で賑わい、家内安全、災障消除、諸縁吉祥をお祈りいたしました。

●青山俊董老師講演会

・二月二十八日（金）

正法眼蔵四摂法巻の御提唱七十名ほどの参加者があり、皆さんと共に法悦に浸りました。

●彼岸会法要・護持会総会

・三月十七日（月）午前十時半より

百五十名ほどの参加者があり、例年通り彼岸会法要引き続き、護持会総会が開催されました。

●お盆諸堂大掃除

・七月二十七日（日）午前十時より

三十名程のご奉仕により一時間半で終わりました。ご奉仕の皆様お疲れ様でした。

●孟蘭盆会法要

・八月六日（水）午前十時半より

例年同様約百五十名の参加者で賑わいました。

●青山俊董老師講演会

・九月三十日（火）

正法眼蔵四摂法巻の御提唱七十名ほどの参加者があり、大変分かり易い老師のお話を聞き、皆が法悦に浸りました。

●お月見コンサート

・十月四日（土）午後六時半より

今年は、大代啓二先生のお力添えにより、マリンピストとして世界的に活動なさっている神谷百子先生をお迎えすることが出来ました。

フルートとマリンバの迫力ある演奏に、参加者は魅了され、深い感動を味わいました。

●臘八摂心坐禅会

・十二月一日（月）～八日（月）

例年通り坐禅会の皆さんと共に坐らせていただき、誠に有り難い摂心でした。

●年末諸堂大掃除

・十二月七日（日）午後一時より

二十五名程のご奉仕により一時間ほどで終わりました。ご奉仕の皆様お疲れ様でした。

◆行事案内◆

(平成二十七年一月～十二月)

●年頭坐禅会

・正月元旦 午前八時より

●新年修正会 (大般若祈祷会)

・正月元旦 午前十時より

新年のご祈祷会です。家内安全、災障消除、諸縁吉祥等をご祈祷いたします。

●青山俊董老師講演会

・二月二十八日(土)



正法眼蔵四摂法巻の御提唱

午前の部 十時半～十二時

午後の部 一時半～三時

参加費 午前午後 各千円

昼食代 一人 百円

*坐禅をされる方は九時より

*昼食を希望される方は、予め電話にてお申し込み下さい。

●彼岸会法要・護持会総会

・三月十七日(火) 午前十時半より

例年通り、彼岸会法要引き続き護持会総会を開催致します。護持会員さまにはお弁当とお茶を準備してお待ちしております。

●開創四百年記念「趣味の作品展」

・四月十一日(土)～十八日(土)

この期間中禅昌寺道場にて、檀信徒の方が制作された作品を展示し、一部販売しております。油絵や日本画、陶器、小物、カバンなど様々な作品がございますので、是非お立ち寄りください。

●開創四百年記念慶讃法要

・四月十八日(土) 午前十時より

大本山永平寺貫主福山諦法禪師をお迎えし、大法会を行います。当日は縁日も開催されており、子供コーナーもございますので、ご家族御揃いでご参加下さい。

●開創四百年記念事業の後片付け

・四月十九日(日) 午前十時より

前日の大法会やコンサートの後片付け等、清掃を行います。お力添えを宜しくお願い致します。二時間程で終了します。

●お盆前諸堂大掃除

・七月二十六日(日) 午前十時より

お子さんお孫さんとご一緒にご参加下さい。二時間ほどで終わります。お昼を準備してお待ちいたしております。

●盂蘭盆会法要

・八月六日(木) 午前十時半より

法要引き続き法話がございます。

●青山俊董老師講演会

・九月三十日(水)

正法眼蔵四摂法巻の御提唱

午前の部 十時半～十二時

午後の部 一時半～三時

参加費 午前午後 各千円

昼食代 一人 百円

*坐禅をされる方は九時より

*昼食を希望される方は、

予め電話にてお申し込み下さい。

●お月見コンサート

・十月三日(土)～予定

*現在、内容や日程について調整中。



写真は2014年開催のコンサートのひとこま

●臘八摂心坐禅会

・十二月一日(火)～八日(火)

午前 五時半より六時十分まで

午後 七時より八時半まで

*年内の坐禅会は、八日の早朝坐禅をもってお休みします。

●年末諸堂大掃除

・十二月六日(日) 午後一時より

お子さんお孫さんとご一緒にご参加

下さい。二時間ほどで終わります。お茶とお菓子を準備してお待ちしております。

毎月定例行事

●上田宗箇流茶道稽古日

毎月一回 第四金曜日午後一時から

※お抹茶とお菓子を気軽に楽しむつもりでご参加下さい。

●御詠歌の会

第二金曜日午前十時より自主練習

第四金曜日午前九時より講師を招いて練習 昼まで

◎茶道の稽古及び御詠歌の稽古は講師の都合により変更する場合もあります。初めて参加される方は、電話にてご確認ください。

毎週定例行事

●水曜坐禅会 午後七時より

坐禅・茶話会 終了八時半

●婦人坐禅会 毎週金曜日

午後一時より坐禅・茶話会終了三時(第二金曜日のみ坐禅の後、写経・茶話会)

原稿募集

皆様の随筆、旅行記、体験談、趣味の短歌俳句など何でも結構です。お寄せ下さい。